



北蝦夷圖繪 = Kita Ezo zusetsu. [vol. 2] 1855

Mamiya Rinzō, 1780-1844
[s.l.]: [s.n.], 1855

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

北蝦夷圖說

南方初島部

二

J-1310-2

~

2

1

3

北蝦夷圖說卷之二

常陸 間宮倫宗口述
備中 秦 貞廉編

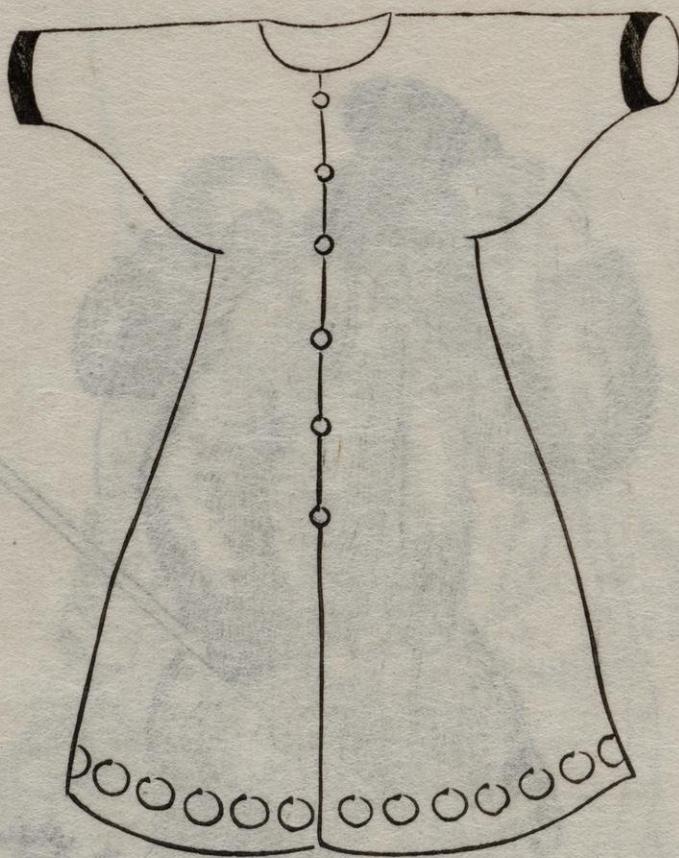
南方初島人物之部

一此島の人物南方凡百五十里の間を大抵蝦夷島より異るナシ
ナリと云ふて其眉毛連續せざる者もあつて鬚も亦薄き少
似たゞ頭髪の雜夥せるやう多く其垂髪の状も亦蝦夷島
小比トテは長トテ其耳飾の環ハ蝦夷島より異るナカム
一女夷の文身蝦夷島のよよく濃點するものなくして甚薄
漸く奥地へ至るゝ迄つて文身せざる者の多一其垂髪の状

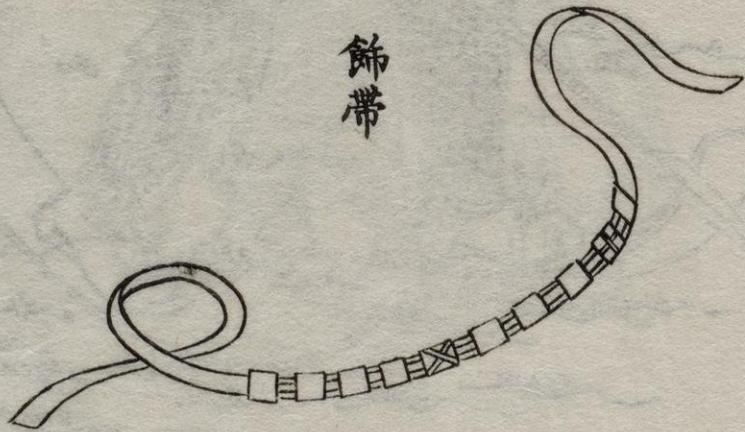
蝦夷島より長くまで肩をおり其容貌蝦夷島小比アモ
艶色の者多一

男女の衣服亦蝦夷島小比アモ木皮布と製して服となリ
ト以アド所謂ヲヒヤフ。テカツブ称レムカの此島多
く產セダモバ以ア島夷の服と成リテ是ラバ故モ一セと
称セ。草皮と剥チ取水脣纺績アキテ糸と製一布と造。本邦
ノ麻布ガタ一是を名づケテテグラベド。此島の造出
ヒ布帛の類只此二種小限。木綿衣の類も服レム。ど
悉く山丹夷の齋アモ來て交易するところの物或そ本邦の送
るヤマシウモアモ地産の也アモアバ其他如魚獸皮と以ア

女夷飾服圖



飾帶



奥地夷圖 其一





其二



巾と蒙る様に異俗の者とあらむこと多くと云
一極寒の地なるゆゑ小島夷長サとちく魚獸皮を以て、脚衣履
襪を製し著し、蝦夷島徒跣の夷れどもあらず故ニ其俗一
般の異状ありと云

飲食

一飲食の事大抵蝦夷島と異かるべからず、只其草根と貯め
て夥しく海獸乃油と食する事甚し、是と異る

一獸肉かく食らひ物

トド 水豹 大狐 猿 獬 ホイヌ トナカイ リキ
シカモイ

巾と蒙カモる様に異俗の者とあらむこと多くと云
一極寒の地カムシゆゑふ島夷長サトナリ魚獸皮カニク以て、脚衣履カツイフ
襪カツバと製カツシテ一著カツい蝦夷島カモシマ徒跣カモハタの夷カモヒとある故カモハタ其俗一
般の異状カモハタあつてと云

飲食

一飲食の事大抵蝦夷島と異たる者カモハタあつ只其草根と貯カモハタる
者カモハタ夥カモハタ海獸乃油カモハタと食カモハタること甚カモハタ一是と異カモハタる

一獸肉カモハタを食カモハタる物

トド 水豹トカブ 大狐オオカミ 懶カモシカ ホイヌ ト十カイ リキ

シカモイ

一魚肉かゝて食する物

鮭 鱈 鮓 ハキユツキエツフ アルコイ 其他雜魚

一草根ふきく食ひる物

キトロ ハツブ イレラウ トマ シトリキ十

イチラボ ウニシコ チマキナ イケマ イカノカ

イ ライベウシカルヘ 一名モレ ホメシユタクル キンラ

タエキナ トレツブキト ビンキナ イテレタラ

フーウレツフタム アン子カ ウ子ハム キリケ

シ シラクチ ハビドン イマウリ キクイラ カ

ツ フ シヤツクトレツブ キユツクトレツブ

一本實^{アツ}にて食ひし物

シケレベニニセウ

大抵草根の食^{ミテ}をも^サりのち悉く春夏秋の間^ハ取來て乾曝^{ハシメテ}一倉中^ハ小藏^{アツ}にて冬月の貯^ムとあひ皆女夷のちいさくもす一草根本實の如き^モ寫生^{スル}其形^ハを得たら^ハ小あくされバ用とすはば故^ニ小圖^{スル}を出^ヘヒ^トと^ハ渴^{ハシメ}ば

一煮熟^{ハシメ}の法大抵水者^ハ物多^シ其^ハ鹽味^ハ用る物ある時^ハ大^ハ不^{ハシメ}薄^{ハシメ}ふ^テ濃鹹^{ハシメ}の物^ハ忌^ム

一大抵の食物海^{シマ}獸油^{ハシメ}と^{シテ}いでは是^ハと喰^フ其^ハ故^ニと問ふよ諸草の肉或^モ毒物^{アリ}と^{ハシメ}腹痛^{ハシメ}るとある獸油^{ハシメ}と^{シテ}いへて喰^フ

時ハ絶て其更ナリと云故ニ黙油ト 本邦の嗜醬の如ク
シテ一日もナシハ有ズ

一夏月中不獵の時ハ冬月より至て黙油盡シトコム其時、斧小刀
其他何より次古釘破鍋の類を持て犬と引かれ奥地異俗
の夷地ノ入で黙油と交易レトド黙の腹平生貯置て盛
油の器とい小感
マテ船小積、大々て是と挽ひきめ積雪剝寒かきむくヒテ帰リ來
スルニ云是一日もあらず、
シテ物なれバナラ

此島ハ極北の離島ナリ故ニヤ是迄松前家の教育蝦夷島
シヒテハ大ふ踰キシ似たナリ众抱畜屋くわいじやト称シ者東、
ウフイトマリ地名西はララウ子トマリ地名ナシシテ是と設て其

奥地是と置び又蝦夷地えいち名な小使こしヤ称めいる者此島しま是と
設たて。といふとも僅小東ことうをシレトロトロ_{地ぢ}名な不ふ限げん丁てう西にしチヨニツホホ_{地ぢ}名な其奥地是者と置び故小奥地あじの夷ゑト蝦夷えい島しまの属しゆ
島しまなることを知しらざれ者ものハア且また夷人ゑいじんの住居すじょ其島しまと定さだめバ
ウイ任おきせテ是彼小迁移おき一いつ蠶寡孤獨じやくの夷ゑ至いたマテハ猶更親しん
族しやく昵なづ近ちかの差別さべつもなく我わ小任おきせテ此彼小同居どうきょ以ひ故小林藏はやし
其人數すうと改かる時詳くわよひあやくわやわと云い

東海岬とうかいキヤシ地ぢ名なトドカタライカ地ぢ名な小至こぢるち間まト夷家ゑいじ凡まん三

百十四屋居夷男女ゑいじんじょ合あつて二千四十一人

西海岬せいかいシラヌシよリヨナライヨミよミの間ま夷家ゑいじ九百二十

四屋居夷男女と合て凡八百六人

通計家數四百三十八屋人數二千八百四十七人

一奥地ヲロツコ。スメレンクル夷の居貞人數をカニ至カニ
るともあらず小言語又通トゞく况ヲロツコ夷の如きハ
其居所を定めハ水草と追ふて轉移シム事多キモハ其詳
ナムアリと見聞セムことを得ざれども大抵其貞數概算す
ラム小蓋一全島中の居夷と十分カ一其七分小居シテ其
俗蝦夷の如キもれも僅小其三分一ナムアと云

居家之部

一此島南方五六六十里乃地モ居家の造法總て蝦夷島小異ニシ

とかく奥地アシタカ小至アリスハ異俗スメシクルの居家よ類アソブる者ありとゞ十にて一二あるのみ

此島の夷アシカハ冬月アキタツキより至て穴居アソブ者有然アリソノ地の寒煖アヒナムよ依て是アソブトアリトヨー島夷總て是アソブトナリトヨ非アソブジ其穴居アソブ者も實アリ寒威堪アシタカ止アシタカことと得アシタカベシテ是アソブトナリトヨ九十月クモツタツキの比既アリ積雪アシタカの時アリ至アリトアリ是アソブト造アシタカト其内アソブ入アリテ春二三月スニツタツキれに積雪アシタカシテ解アシタカ前アシタカよ穴アソブト出アシタカテ平生アソブの家アソブよ居アソブヒ如斯アシタカセザル時アリ身疾病アシタカトアシタカ云

一穴居アソブト製アシタカシム法先山アシタカ小添アリステ地アソブと撰アシタカ土アソブと堀アシタカシヤ凡三四尺许其内アソブ小圖アソブの柱アソブ立アシタカ屋アソブと覆アシタカよ木アソブの皮アソブと以アシタカて

重田探齋筆

穴居圖

卷之二

九

八

七

六

五

四

三

二

一

九

八

七

六

五

四

三

二

一

重田探齋筆

穴居圖

九
蠟
夷
圖
說

卷之二

九

八

七

六

五

四

三

二

一

九

八

七

六

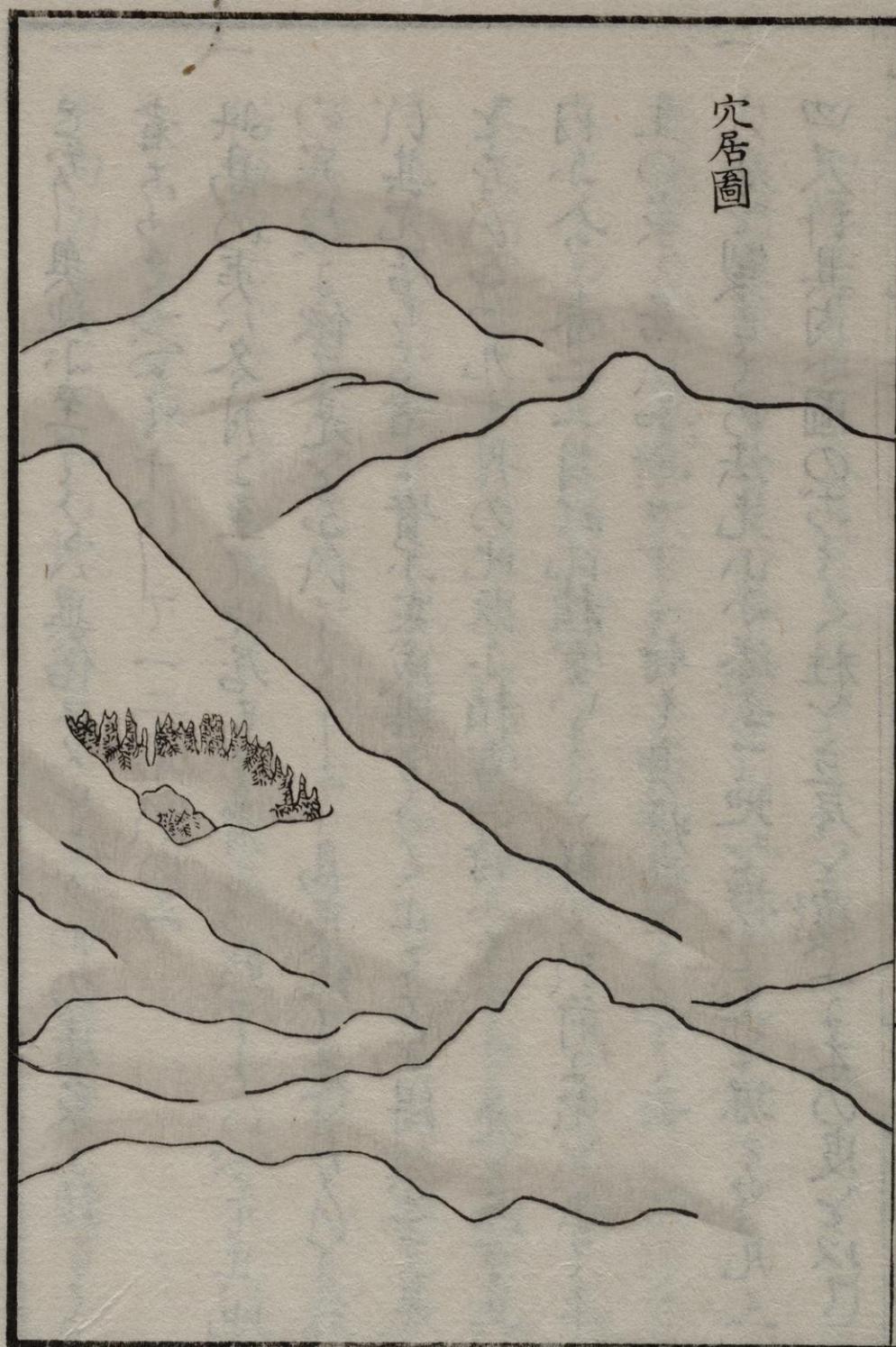
五

四

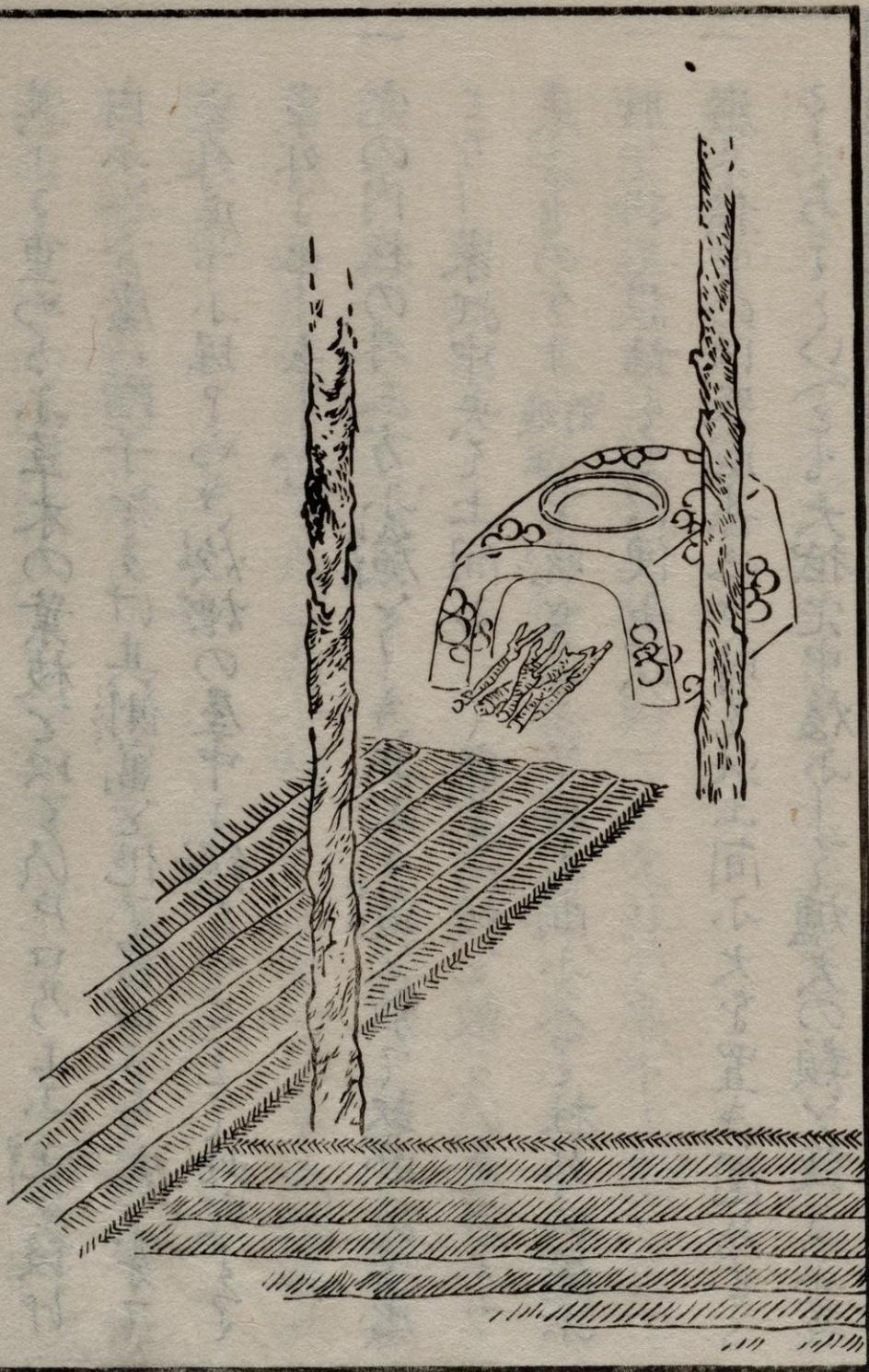
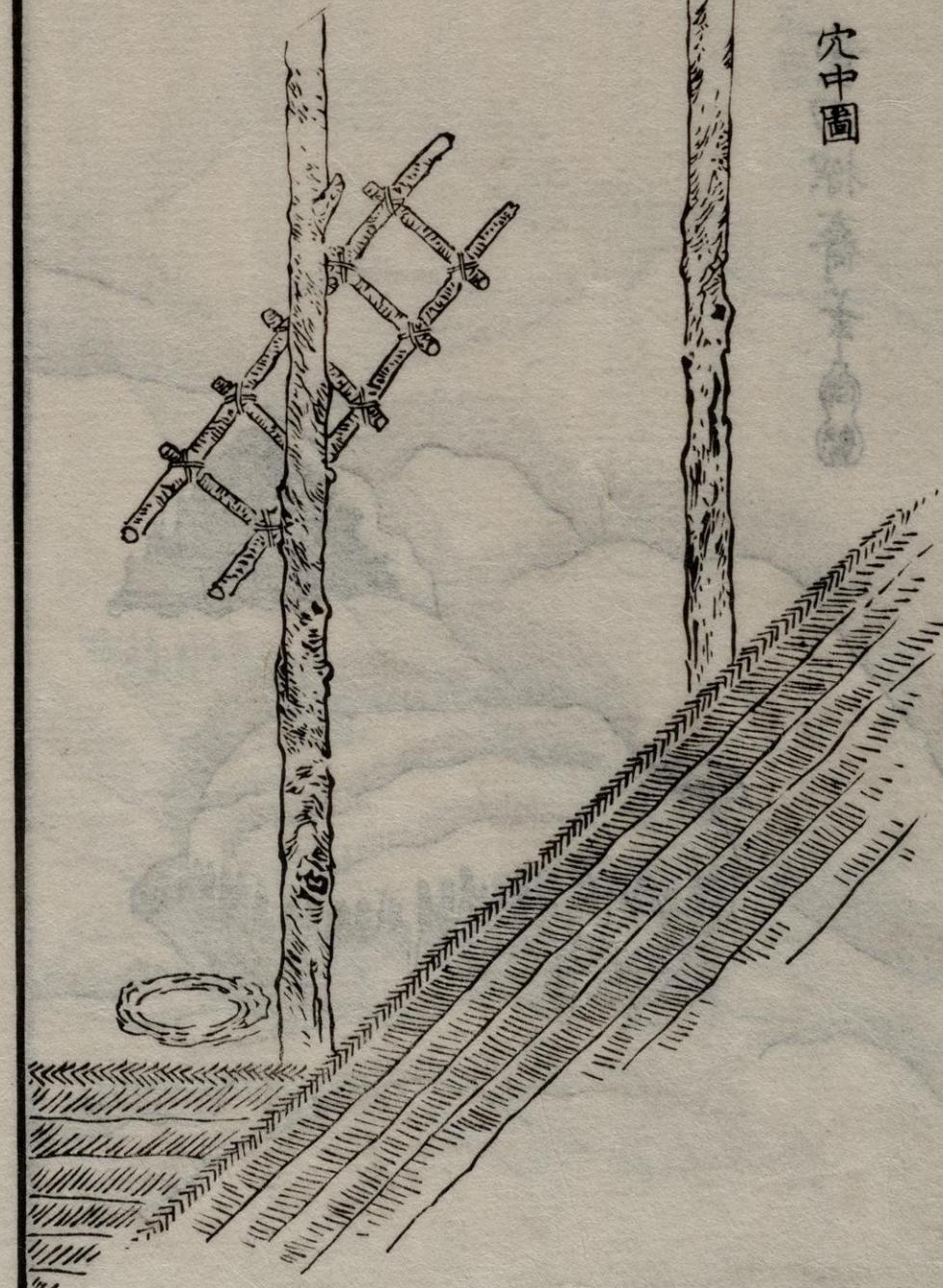
三

二

一



穴中圖



其上より重やかに草木の葉枝を以て戸口乃至上小庵と設け
内小入より處ハ階子とつけ其側竈と化す竈中より穴と穿て
家外廬下小堀アキラカ火櫻の屋中より鎖も忌として此穴より
家外より去りし

一穴の内柱の外三方小龕アキラカ其上より筵と敷て起卧する處
とナリ家れ中央を土間にて席筵の類と敷くは是外より
来るものケリ履虫前と脱せりて此土間小入アキラカ柱外の筵より
腰を掛け談話もしく便ゆ次

一巖冬積雪の頃寒威甚しき時を此土間小火を置き圍居らる
事あらずとも大抵穴中傍より燼火の類と設ふる所及

ちの只 ウンジヨ マツフと名付たる石器と置て火を貯へ煙草
の火となり

一日用の雜器或は飲食の物と貯ふ外の廬下の閣と號て
其處とナ。其他寶貨及諸器物貯糧の類ハ悉く倉中より藏し

器械部

一 鍊釜ハ大抵本邦の渡りと云ふの物と用ふ。とくに奥地小
至て山且製の物と用ふ。大小種々あつて。とくに大抵其状
圖の如く

一 地夷製ひ。所の土鍋。よア大抵の大きさ徑マ六七寸。形
圓の如く。両邊の握耳ハナゲ内邊少没くトナリ。皮と以
テ製

縄 ヨウ ものと以て弦ヨウと火の燒切せんことを忍れて樺木
皮ヒと纏マツルふと圖マツルのあら

一 土鍋製造のあら林蔵詳ヨウふ此コトふ載マツルふ得マツルべ夷言ヨウゴンもと
土鍋ヒツカを指シテト卫エイレユと称シメひきどり島夷ヨウゴンハ是コレと忌タガてカモ
イレユと云其クニ事實ジシテハ詳ヨウニセざれども神鍋カミカと謠リヒ

一 檀タケまゝ大抵本邦ホンボウの物モノを用マツルふ奥地オカチ小至シテて夷製ヨウセイのもれあら形
圖マツルのあら

一 此島用マツルとこうれ船夷ボウヨウのみづミヅつ造マツルるとこうれかう其形
圖マツルのあら產物部サンブツブニ云如く良找ヨウサウあた島シマすれど柳ヨウの類ルイ或モ
夷ヨウ称シメヤ卫エイニナも物モノと以マツル是コレと造マツル其板甚シテ薄ヨウ柔軟ヨウナク小

ちう危きゝと蝦夷船より越たゞ其製造のあや、船具の如きは
蝦夷船小異ることか

一 艇ト此島の専用トとあるところの物小つて其形蝦夷島より異
ア繩トナリ出前と用ひ杖ト木と以て是と造ア其末鍊ト以
て是と卷ト釘ト出ト履板ト圍トの

一 鎗ト本邦山且の物と雜用ひ柄長々凡六七尺異形の物な

一 此地弓矢の類皆蝦夷島の用るやうの如

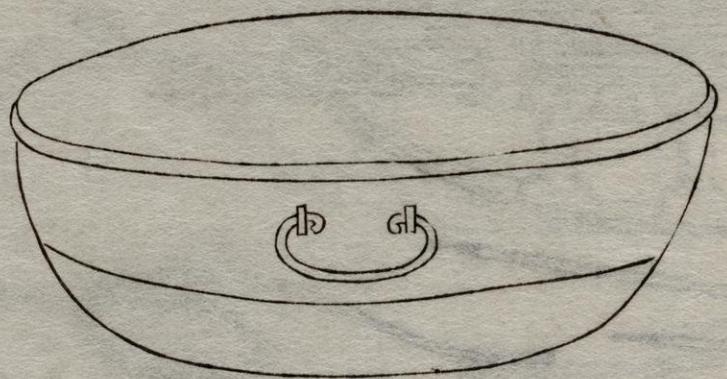
一 其他日用諸雜器諸般蝦夷島の用るところ乃如

産業部上

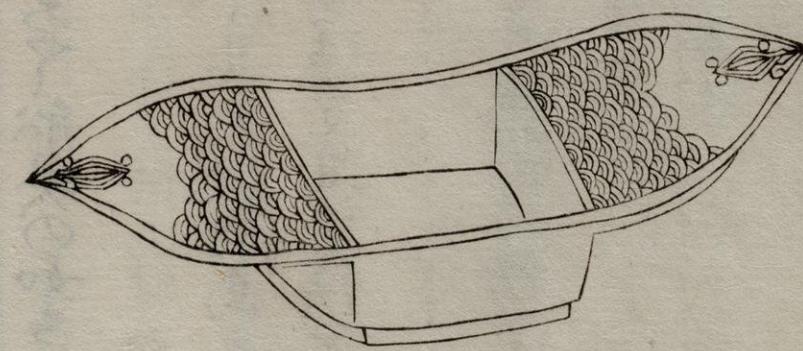
一 此島の夷生産の第一事となひものも大ちう貧賤の夷ハ其



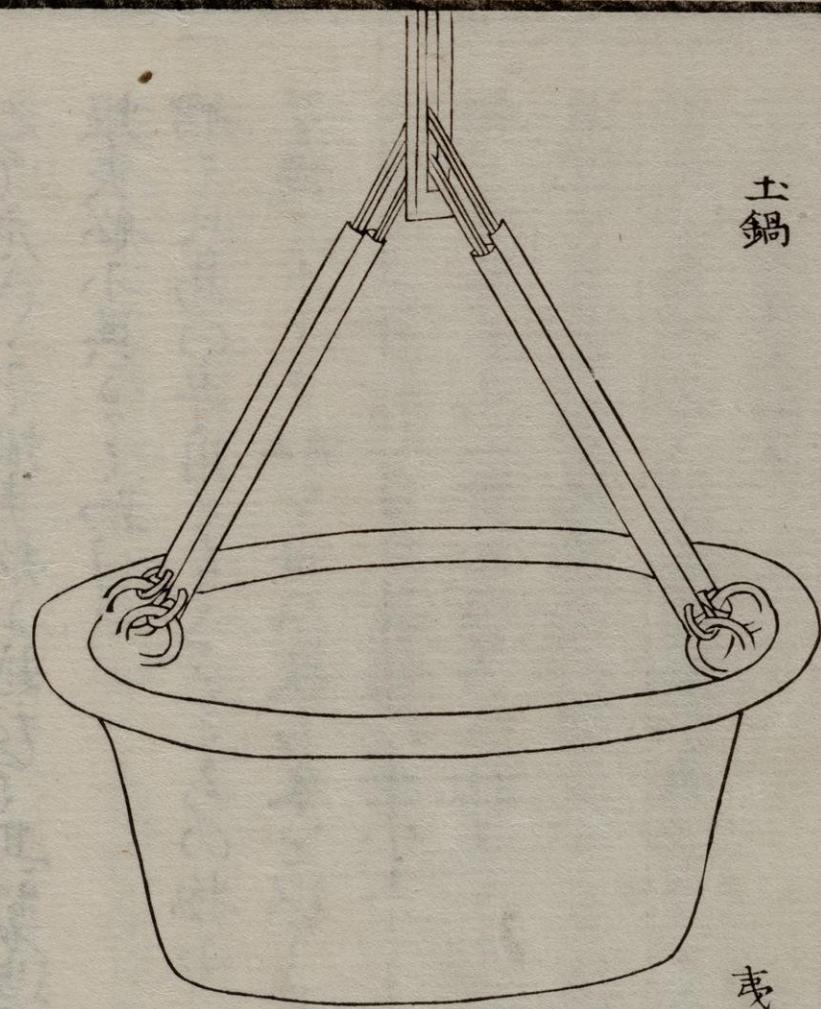
同



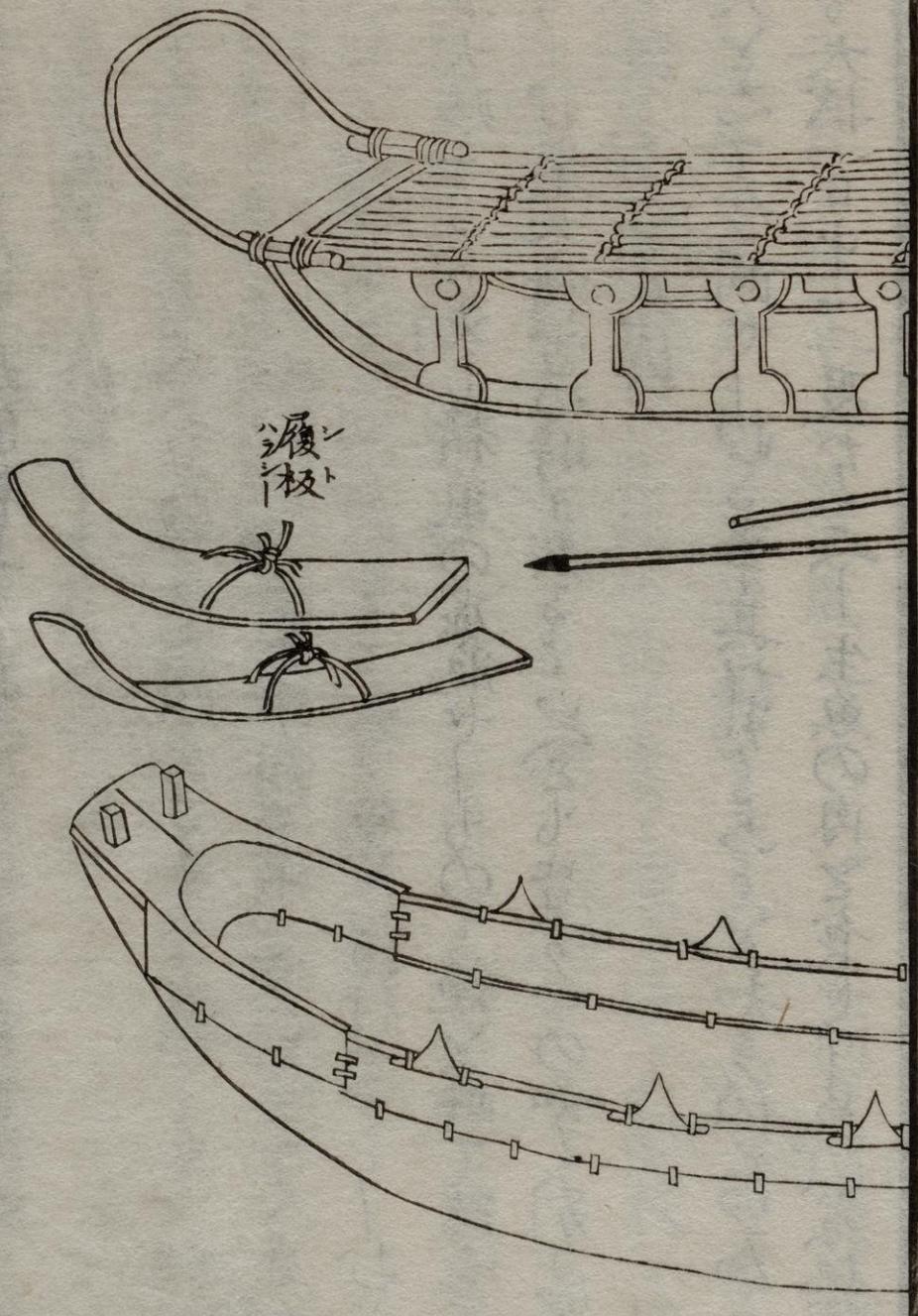
山且金



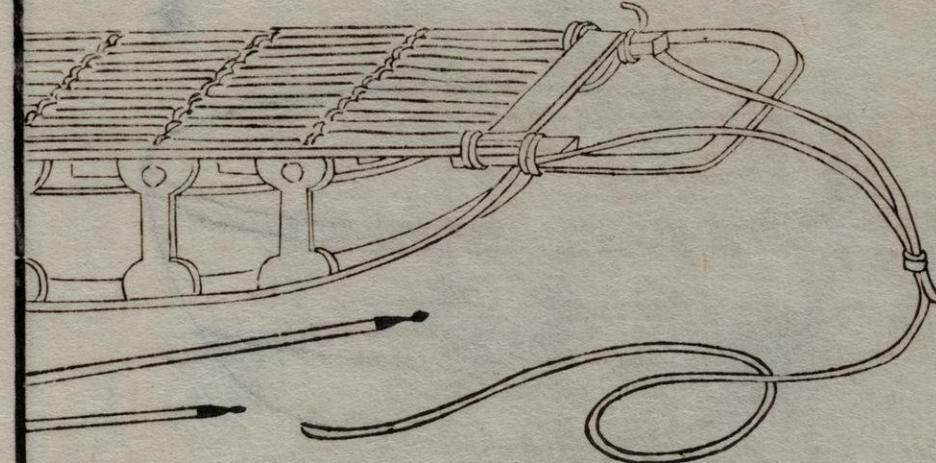
夷椀



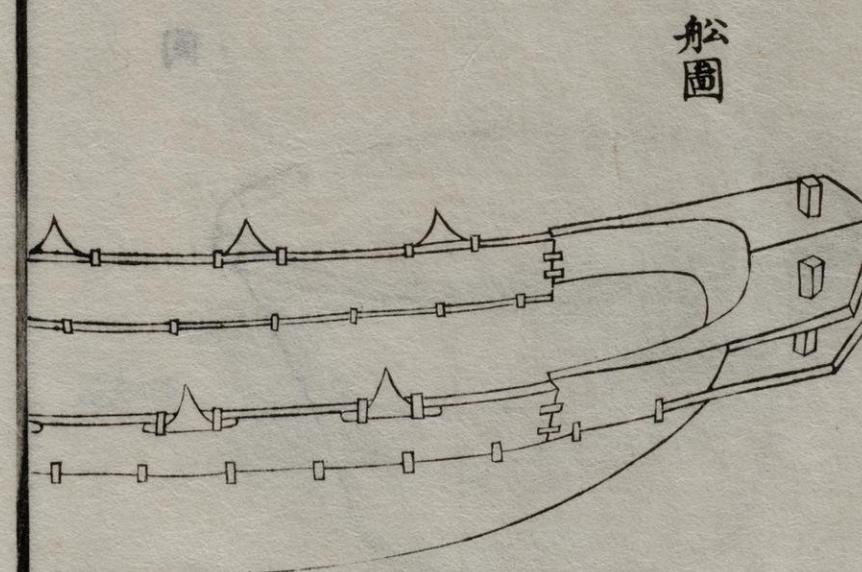
土鍋



縫板



船ノシケニ



船圖

てニマムと称せる木器す盛アリ二三犬より同食ヤ。む然
斗シテ大と放つて自ら食セ。シテナリ。其時ハ夷自ら
律縄と解シ是と曳て食物の所不至アリ。食一終るの間枕を以
て其後小立其奪食咬啮シム者と撻テ忘陵のトカツム
一犬児と養フ。更縄と以テ繫くこと初のト食餌も又同ド。ニ
シテ魚骨と去テ肉のみ小く破裂て是と食ヤ。ム
一此他大犬小犬小限ラバ撫育の懇ミカツアリ。放擧シテ、シテ
實小小児と養育シテ。如一故小犬乃夷と慕フ。シテモ亦嬰
児の母と慕フ。ガバと書夜其側と離ル。ナカニ夷等出
行ひる時。其前後必丙ニ頭を送。夜も夷等の側小伏一枕

失費小堪されど是を養ふとあらばざれども富貴の者ハ家
、是と置ざることのなき

一一家養ふと多く乃大抵五六頭より十二三頭アリ至る是其用と
なれ者此他牡犬児犬の類 其生平飼置所ハ園の庭石 ごとく
木と建横木と結び一大毬アリ是と繫つる ジ漫行せざるも若
其大病たうり 又モ精氣の虚脱セモノモ縛と解て随意
らむ嚴冬積雪の時よ至るアリども 皆こうの如く別々牢
と設る事と見べ

一犬と立て食飼セム事其詳たぐ あこと知らばとし便と
も大抵一日中一二度たゞ 生魚の肉と食セラバ煮熟之

畜犬圖 其一



其二



中の物を分て是と喰へめなどちる様に實ふ禽獸と同居し
る力のやゝ云々児夷の嬉戯多く犬と弄て圖の如く人乃児
を負ふゞく衣中小入生く是と負ふ犬児も亦晏然として
衣中ふあま是心愛育の状を察らる小足生マ

一児大漸小長ドテ後其猾猛なる者と撰て家狗となリ其懦弱
ゆにて用よ堪ざる力の或リハ犬乃小懦みて乳セリム
ううけらものは悉く絞マ殺て其皮と取ア肉と食フ

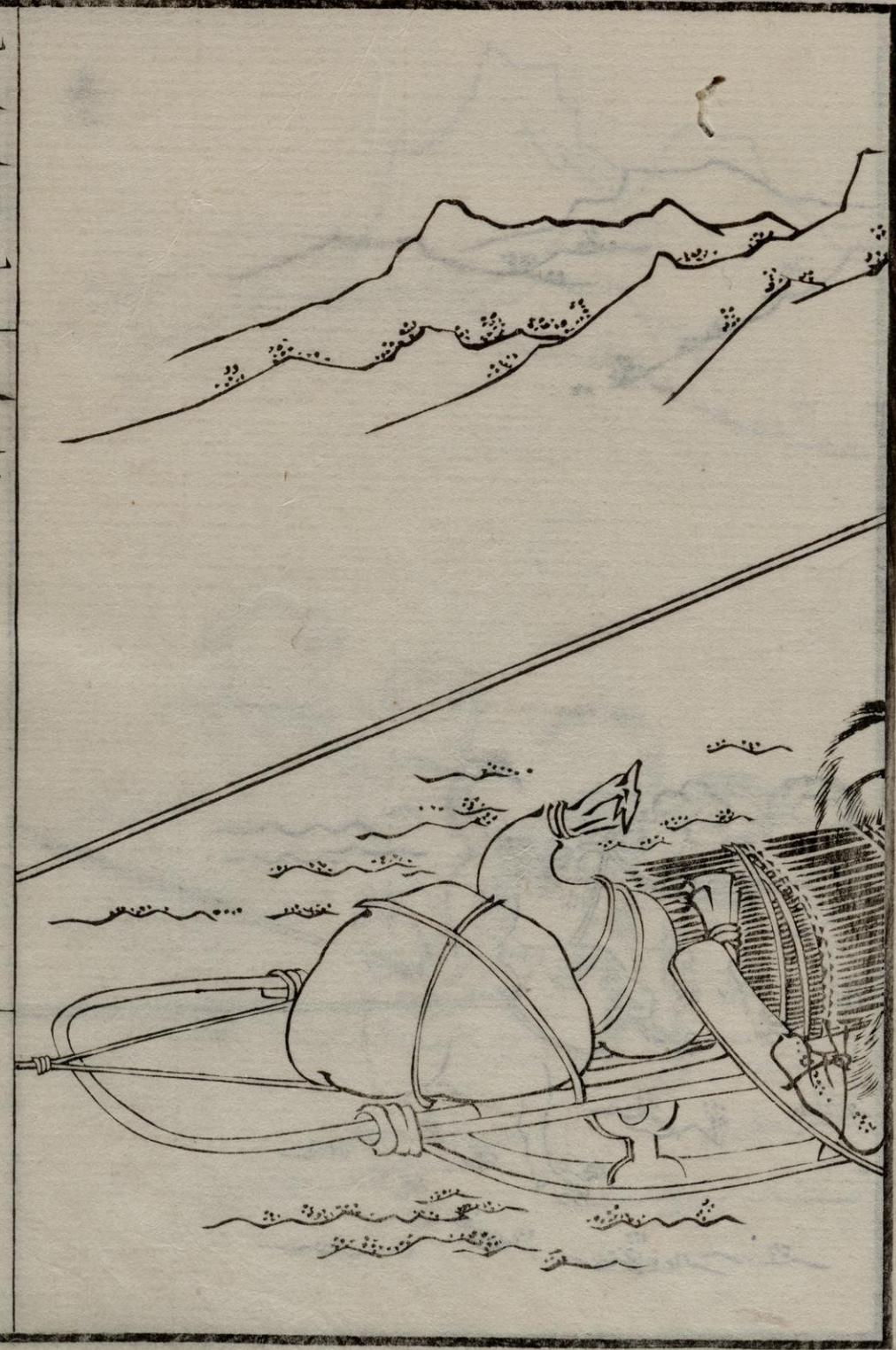
一犬児漸小長ドテ後甚ぞ淫犬也悉く陰囊と破アてその陰
卵と取去る是其妄淫と禁ド其筋骨と強くセリむると云
一陰卵と去るの方圖の如く犬の四足と木小束縛一又縄と以

て其口喙と巻き両三の夷是と擁立て動搖跋蹠せざりめ
一夷刀と以て陰囊と裂き其陰卵と取出て是と去り直小
縄と解すて是を放は小犬痛傷の趣なく暫時其刀痕と嘗め
忽然と走り去る其後常小異るかく然もとて妄り
不是と去るかく天時と考其狗の生質と按て是と
あく若其裁害の術拙なる時ハ即死する者あり故此事ふ
熟練せざるの夷是とちひあらと得べ林藏其詳からること
と聞やれど其方と陳めよととて得べ

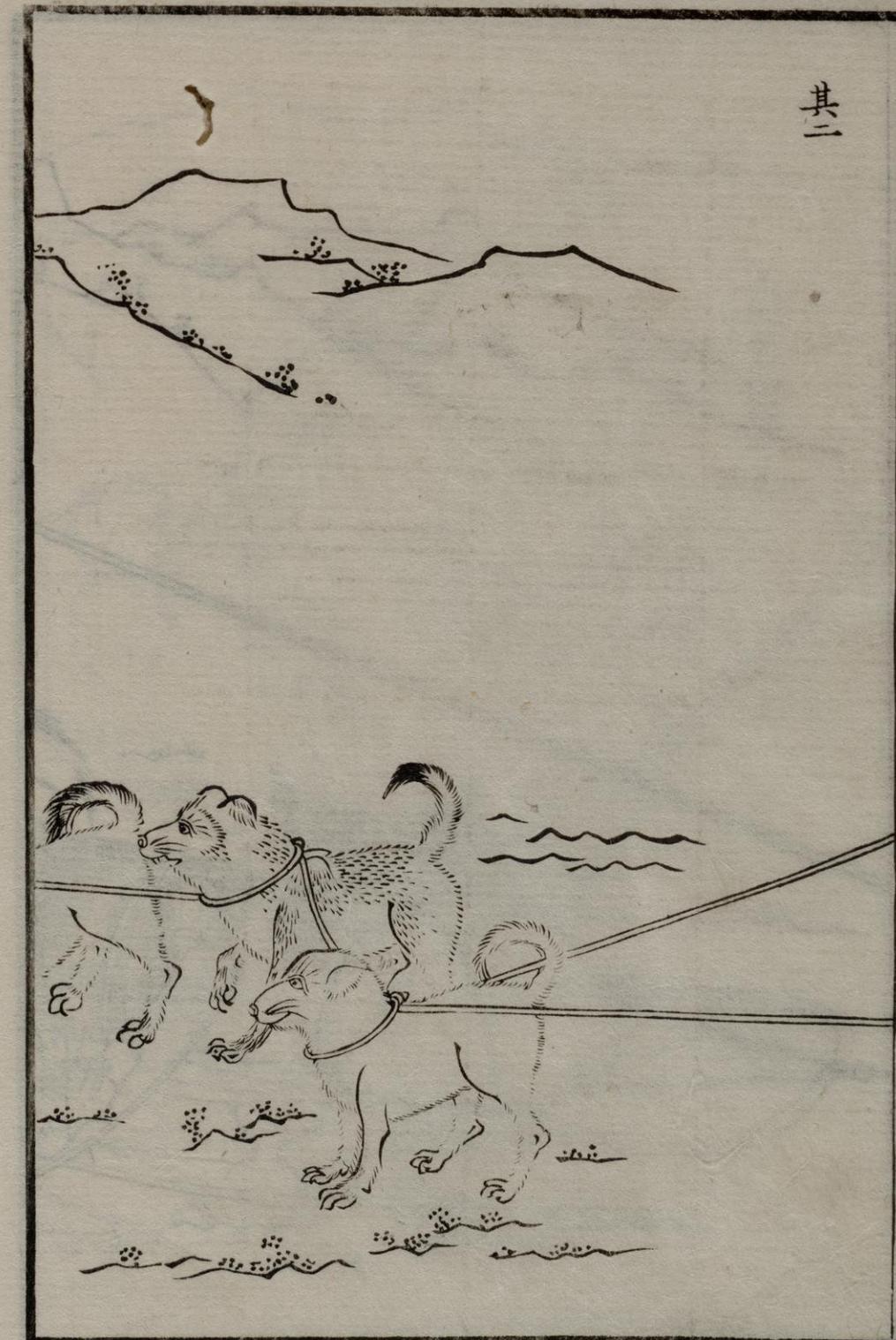
其用すとろん船と挽一むと第一又船と牽きあ
山猿と助く船舟とも其馭法大巧拙あらず拙なるもの



使犬牽船圖



其二



使犬挽船圖



其二



部落中近步圖



漸く四五疋の犬を用ひ巧むりのち八九疋十餘疋といふ
ども是と馴じ此島の犬を見る小其性本邦の犬と異なるづ如
くみて物と挽くまとと悦ぶの情あつて云艤舟は限らば
挽きあひと欲する時も圖の如く先犬と連繫して立木は繫
ざ、置き牝牡の倫なく細とつくる時も忽ち前行して挽繫に故に三四頭と連繫する時ハ一二人のかと以て留べ
ううじ故に装するもの内既小連挽つるしよふらて聲と
鞍一跋躍さきい裝成さまて植木の縄と解と待びて馳出はしゆついおや矢
の如く一船七八頭ども挽きしる時、一日中十七八里と馳

、もぐ

一馴術も圖の如く兩手小本杖を持ちて船の上小跨居まき一犬差

馳傍行する時ハトウくと云聲と發し船觸る處あり時
も杖と地中少刺にて是と當む地勢中少云一如くたる海岸
の冰地と馳驅ることやくふ碎氷ある其上小石いはと一轉
ひたれぞ船常ふ動搖けること甚一故少暫時の間も目を放
ち心を安むるのもまづ一度其馳と誤る時ハ船忽て轉覆
きて其身雪中小舟ド冰上よ傷きのすくへ船て何地へ
う引行キ幸よ木の根岩角などあらず其船轉滯にて如何程
小引どゞ行つゝやる事たりふるべれハ留らんと
ナリ其幸よもて留マシラリ船を悉くやされ積むもろ
の物を總て破却一縄を衆犬の口すまく漸よもて追付其

處小至ア得ルトモリヤドモ是と修理モルマテ容易のシム
アツバ林藏時く犬を馴シテみづク此艱苦と知ルト云
一舟を挽キモルシ大抵如斯ソシモ其心を勞シム事頗
サ一トイヨ

一多力猾猛ヤモノアキテ能挽曳のアキモ馴レタ。大ト連
頭不置ケ挽キモ是と名付テ前導犬と称シ島夷此犬ト擇
ムコトを專務シ此犬アキ時ハ衆犬情逸シテ其用モ
カバ故小是と交易シムコトアリ小其價大抵斧三頭トウ高
價の者も五六挺小至る

一島夷ハ近所小行マリシモシムシムの雜器ある時ク

悉く船よ積て犬とて是と挽ちじ其道近き時を児大壯大
子論たゞく更る犬と擇むあやかゝ大弱く路難アて挽得せ
ふ所ハ夷等助け引て其所よ至る

一山獵小用る時ハ能猛獸と戦ひ深山幽谷小入諸獸と追出
一夷等の助どからること校舉まきひづふ遑はあハバ

一家狗の病ア死マるものも只其皮と取のマハテ其肉を

シラバ

北蝦夷圖說卷之二終

